

# 環境経営レポート



株式会社デリカウェーブ

## 2023年度 環境経営レポート

(対象期間: 2023年4月1日～2024年3月31日)



あま〜い、ご褒美時間



**MARUHA NICHIRO**

海といのちの未来をつくる

作成日2024年5月1日

更新日2024年5月24日

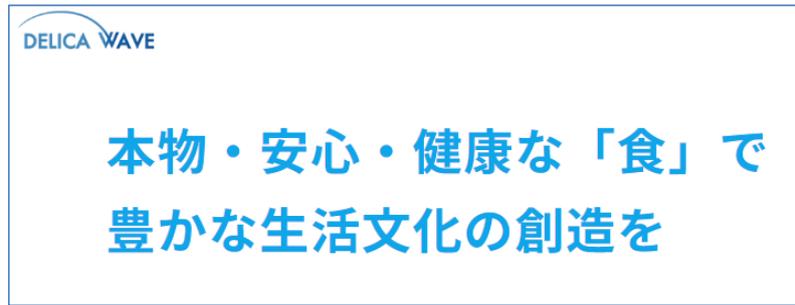
## 目 次

項 目	ページ
環境経営レポート表紙	1/12
目 次	2/12
ごあいさつ・環境経営方針：環境経営理念・環境保全への行動指針	3/12
組織の概要・認証登録の対象組織・活動・事業や製品(商品)の紹介	4/12
環境経営組織図及び役割・責任・権限表	5/12
主な環境負荷の実績・カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み	6/12
環境経営計画の取組結果とその評価(エネルギー:電気・都市ガス・LPG)	7/12
環境経営計画の取組結果とその評価(エネルギー:A重油・車の燃料・一般廃棄物)	8/12
環境経営計画の取組結果とその評価(廃棄物:廃プラ・食品残渣・水道)	9/12
環境経営計画の取組結果とその評価(化学物質・グリーン購入)	10/12
環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果,並びに違反,訴訟等の有無	11/12
緊急事態対応訓練・代表者による全体の評価と見直し・指示	11/12
これまでの環境活動の紹介・編集後記	12/12

## SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



これまで豊かな自然の恵みを受けて商品を作り、営んできたデリカウェーブにとって、地球環境の保全是重要なテーマだと考えています。企業としての持続可能な成長のために、地球環境への負荷軽減や地球環境と共存できるよう全社一丸となり地球環境保全に取り組んでいきます。



## 環境経営方針

### 環境経営理念

地球では今、世界人口の急激な増加を背景に、地球温暖化、資源の枯渇、生態系の破壊などが深刻化しており、将来にわたって人と多様な動植物がともに生き、自然の生産力を維持し続けて行くことが困難な状況になってきています。このような背景の中、デリカウェーブでは「食」という人間の営みの根幹を今後も支え続けるために、環境に対してどのような配慮が必要なのかを検討し具体的な方針に落とし込んだ「デリカウェーブ環境行動方針」を制定し環境経営に取り組んでいきます。環境経営方針はウェブサイトやイントラネット、従業員教育等を通じて、全従業員への周知徹底を図って行きます。

### 環境保全への行動指針

1. 持続可能な資源を有効に使用するとともに、環境負荷の極小化を進め、気候変動の緩和に努めます。
2. 生物多様性に配慮し、環境保全活動に積極的に取り組みます。
3. 環境に配慮した商品・サービスを提供します。
4. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、環境パフォーマンス向上の為、持続的改善を図ります。
5. 環境関連の法規制を遵守します。
6. 環境経営に関わる企業情報を適切に開示し、社会とのコミュニケーションを図ります。

制定日：2021年3月30日

代表取締役社長 福井 雅紫

## 組織の概要

(1) 名称及び代表者名  
株式会社デリカウェーブ  
代表取締役社長 福井 雅紫

(2) 所在地  
本社・湘南工場 神奈川県横須賀市長瀬2丁目1番3号 TEL: 046-841-0711  
新潟工場 新潟県長岡市南陽1丁目1027番地1 TEL: 0258-22-0377  
長野工場 長野県東筑摩郡朝日村大字古見3733-1 TEL: 0263-99-4500

(3) 事業内容  
コンビニエンスストア向けパン・軽食・スイーツの製造

(4) 事業の規模

売上高	2023年度			合計
	本社・湘南工場	新潟工場	長野工場	
従業員	名 343 名	434 名	101 名	878名
延べ床面積	m <sup>2</sup> 3,912 m <sup>2</sup>	7,130 m <sup>2</sup>	4,581 m <sup>2</sup>	15,623 m <sup>2</sup>

108 億円

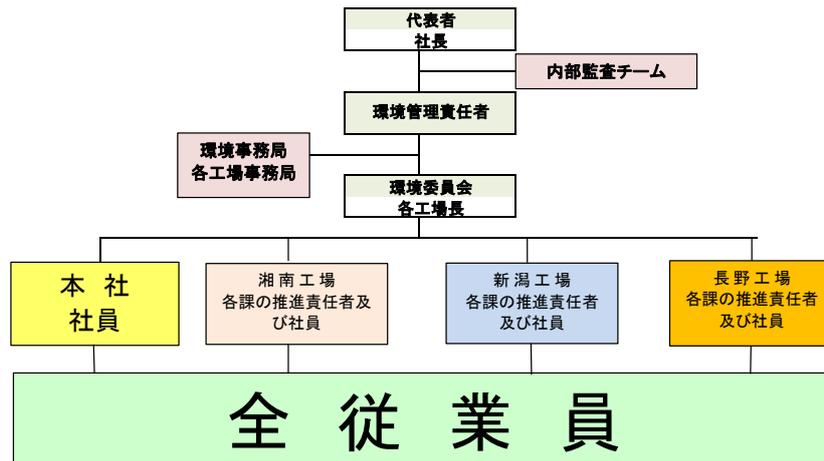
(5) 事業年度 2023年度  
活動期間 4月1日 ~ 3月31日

### □ 認証・登録の対象組織・活動

登録組織名： 株式会社デリカウェーブ  
対象事業所： 本社・湘南工場、新潟工場、長野工場  
活動： コンビニエンスストア向けパン・軽食・スイーツの製造



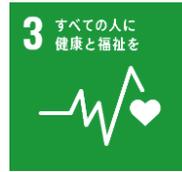
# 環境経営組織及び役割・責任・権限



	役割・責任・権限
代表者(社長)	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営に関する統括責任</li> <li>環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備</li> <li>環境管理責任者を任命し効果的で必要十分な実施体制を構築する</li> <li>実施体制においては、各自の役割、責任及び権限を定め、全従業員に周知する</li> <li>代表者による課題とチャンスの明確化の作成・環境経営目標・環境経営計画書を承認</li> <li>代表者による環境経営方針の策定・全体の評価と見直し指示</li> <li>環境経営レポートの承認</li> </ul>
環境管理責任者	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境経営システムの構築、実施、管理</li> <li>環境関連法規等の取りまとめ表を承認</li> <li>環境経営目標・環境経営計画書を確認</li> <li>環境活動の取組結果を代表者へ報告</li> <li>環境経営レポートの確認</li> </ul>
環境事務局長 各工場の事務局	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境管理責任者の補佐、の事務局</li> <li>環境負荷の自己チェック及び環境への取組の自己チェックの実施</li> <li>環境経営目標、環境経営計画書原案の作成</li> <li>環境活動の実績集計</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理</li> <li>環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施</li> <li>環境関連の内部、外部コミュニケーションの窓口</li> <li>環境経営レポートの作成、公開(事務所に備え付けと地域事務局への送付)</li> </ul>
環境委員会 各工場長	<ul style="list-style-type: none"> <li>課題とチャンスからの環境経営目標作成・環境経営計画書環境経営計画の審議</li> <li>環境経営計画活動実績の確認・評価・総括</li> </ul>
各工場長 各課推進責任者 各工場社員	<ul style="list-style-type: none"> <li>工場における環境経営方針の周知</li> <li>工場の従業員に対する教育訓練の実施</li> <li>工場に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告</li> <li>工場に必要な手順書の作成及び手順書による実施</li> <li>工場の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成</li> <li>試行・訓練を実施、記録の作成</li> <li>工場の問題点の発見、是正、予防処置の実施</li> </ul>
内部監査チーム	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境に関する内部監査の計画</li> <li>環境に関する内部監査の実施・報告</li> </ul>
全従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>環境方針の理解と環境への取組の重要性を自覚</li> <li>決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加</li> </ul>

# 主な環境負荷の実績

項目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO <sub>2</sub>	7,971,715	7,643,557	7,545,402
廃棄物排出量				
一般廃棄物量(紙焼却)	kg	156,515	143,633	87,450
産業廃棄物排出量	kg	1,298,362	1,119,205	1,058,935
食品廃棄物				
発生量		1,041,368	947,200	861,574
発生抑制量		529,400	609,004	691,807
再生利用量		1,041,368	947,200	861,574
熱回収量	kg			
減量量				
再生利用以外の量				
廃棄物処理量				
食品再資源化実施率	%	100%	100%	100.0%
水使用量	m <sup>3</sup>	211,339	200,890	197,906



令和2年度実績の基礎排出係数 湘南：東京電力0.447 新潟：東北電力0.476 長野：中部電力0.406  
 令和3年度実績の基礎排出係数 湘南：東京電力0.457 新潟：東北電力0.496 長野：中部電力0.449  
 令和4年度実績の基礎排出係数 湘南：東京電力0.457 新潟：東北電力0.477 長野：中部電力0.433

## カーボンニュートラルに向けたわが社の取り組み

単位：kg-CO<sub>2</sub>

基準年	化石燃料	電力	対策
2013年度	3,995	5,217	退社時の消灯
82%	3,530	4,015	LED照明切替・ボイラー空気比適正化
80%	3,459	3,935	省エネ設備切替・設備適正稼働
76%	3,283	3,734	エネルギー設備等の導入



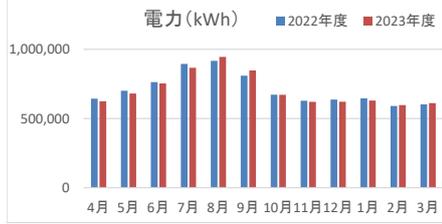
## 環境経営目標及びその実績

項目	年度	2022年度			2023年度			評価	2024年度		2025年度	
		(基準値)	(目標)	(実績)	(目標)	(目標)	(目標)					
電力による二酸化炭素削減	kWh	8,500,387	8,415,383	8,467,669	×	8,330,379		8,245,375				
	基準年度比		99.0%	99.6%		98.0%		97.0%				
	売上高原単位	kwh/千円	0.786	0.779	0.784	×	0.771		0.763			
	kg-CO <sub>2</sub>	4,030,884	3,990,575	4,015,369	×	3,950,266		3,909,957				
	基準年度比		99.0%	99.6%		98.0%		97.0%				
売上高原単位	kg-CO <sub>2</sub> /千円	0.373	0.369	0.372	×	0.365		0.362				
都市ガスによる二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	2,466,355	2,441,691	2,422,596	○	2,417,028		2,392,364				
	基準年度比		99.0%	98.2%		98.0%		97.0%				
	原単位	kg-CO <sub>2</sub> /千円	0.228	0.226	0.224	○	0.224		0.221			
LPGによる二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	556,500	550,935	547,440	○	545,370		539,805				
	基準年度比		99.0%	98.4%		98.0%		97.0%				
	原単位	kg-CO <sub>2</sub> /千円	0.051	0.051	0.051	○	0.050		0.050			
自動車燃料による二酸化炭素削減	kg-CO <sub>2</sub>	57,575	56,999	58,648	×	56,423		55,847				
	基準年度比		99.0%	101.9%		98.0%		97.0%				
	原単位	kg-CO <sub>2</sub> /千円	0.049	0.048	0.046	○	0.048		0.047			
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO <sub>2</sub>	7,643,557	7,561,799	7,545,402	○	7,428,940		7,353,081				
	kg	143,633	140,760	87,450	○	140,760		139,324				
	基準年度比		98.0%	60.9%		98.0%		97.0%				
一般廃棄物の削減	kg	197,227	195,255	230,309	×	193,282		191,310				
	基準年度比		99.0%	116.8%		98.0%		97.0%				
	食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	kg	947,200	899,840	861,574	○	852,480		805,120			
水道水の削減	食り法目標		95.0%	91.0%	○	90.0%		85.0%				
	基準発生原単位	kg/百万円	87.7	83.3	79.8							
	m <sup>3</sup>	200,890	198,881	197,906	○	196,872		194,863				
基準年度比		99.0%	98.5%		98.0%		97.0%					
化学物質の適正管理	*有害物質を含む洗剤等を選定し、使用量の把握を行い、施設管理する。											
環境に配慮した製品・サービスへの取組	*容器包材は顧客指定となるが一部のインナー包装の削減やカップからピロー包材等に変更提案をする *鮮度延長が出来る様に顧客様と取組、良品製造に動める。											

環境経営計画の取組結果とその評価、次年度の環境経営計画

数値目標: ○達成 ×未達成  
活動: ○よくできた △まあまあできた ×できなかった

電力による二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	<p>【新潟工場】1/4半期はLED化が進んだ結果と各部屋と保管庫の適正温度管理が進み使用量・原単位ともに減少。ただし8月9月は記録的な猛暑と酷暑の影響で空調機器の負荷が大きく上昇、生産数は昨年比で減少しているものの使用量は大幅増加に転じた。ただし製品単価上昇により生産数減の中で売上は増加しており、生産性の向上による生産効率向上効果もあり、原単位は減少。今期の取り組みとしては、点灯時間の短い箇所は人感センサーの導入も進め確実に消灯に努める等、さらに削減を図っていく。3/4半期は暖冬傾向といわれた中、1-3月にて平均気温が低く、暖房使用増加。人感センサーは導入の必要性を評価、検討し、必要箇所23か所について100%の導入が完了。様々な改善が進み、年間累計では売上高原単位で改善が図られた。次年度は電気ガスともに単価の大幅な上昇が見込まれるため、老朽設備は省エネ設備への積極的な更新と生産設備の適正稼働を進め、さらなる削減を図っていく。</p> <p>【湘南工場】製造機器の増設にて、目標の1%削減には至らなかった。</p> <p>【長野工場】6月より外気温上昇によるエアコン使用量が増加した、散水開始時期を早めて対応したり、散水量、散水時間を調整したが使用量は未達となった。</p> <p>【次年度の取組計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・全エリアLED化を目指す。</li> <li>・エアコン室外機への散水は適切に実施されていた来期も外気温確認しながら実施する。</li> <li>・生産工程の見直しについては毎週実施を継続来期は出荷時間が前倒しになるため夜勤の生産体制を見直す。</li> <li>・PPA太陽光発電について中部電力ミライズと打合せを実施した。来期中に契約し2025年度着工予定。</li> <li>・全工場で太陽光発電を検討する。</li> </ul>
・事務所・冷保管庫・各部屋の空調温度の適正化	×	
・各部屋の不要箇所の細目な消灯の徹底	△	
・良品製造や生産効率を上げ設備稼働時間の削減	△	
・冷蔵・冷凍庫室の整理整頓、こまめな扉の閉閉	×	
・コンプレッサー・空調設備の定期点検・清掃	○	



取組紹介欄

- ①空調監視システムの導入
- ②デマンド監視による過剰電力監視
- ③冷凍・冷蔵庫の着水物等の排除
- ④室外機への散水による電力量の削減
- ⑤各部屋の空調機のフィルター清掃
- ⑥設備の適正稼働に務める
- ⑦業務自動化による業務の効率化
- ⑧照明器具に人感センサー設置

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	643,162	700,488	762,646	893,947	916,174	808,900	671,687	628,314	637,232	645,428	590,371	602,038
2023年度	624,427	680,833	753,146	866,562	945,067	846,935	671,067	620,517	621,362	629,591	596,899	611,263

都市ガスによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	<p>【新潟工場】1/4半期は焼成工場のトンネルオープン生産数は減少しているものの稼働率は上昇。またフライヤーも同様。ただしバンドオープン使用アイテムが増加、稼働率が大幅に上昇し使用量、原単位も増加した。</p> <p>2/4半期以降、待機時間削減を図り改善が進み、製造アイテム数の増可等で各オープン、フライヤーの稼働率は上昇したものの、原単位については改善が図られた。引き続き稼働率の改善、削減を図る。</p> <p>【湘南工場】現場でのガス設備の稼働時間の適正化。</p> <p>【次年度の取組計画】</p> <p>ボイラー機器の入れ替え</p>
・ボイラー・加熱炉の空気比適正化	○	
・蒸気・冷温水配管の保温点検補修	△	
・給湯機の適正稼働と適正温度徹底	△	
・ガスオープン・フライヤーの適正稼働徹底	○	

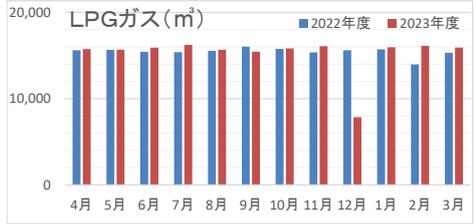


取組紹介欄

- ①ガス設備の適正稼働に務める
- ②ボイラーの空気比・制御温度の適正化
- ③蒸気配管の保温点検実施
- ④設備のアイドリング時間の短縮
- ⑤毎週会議で効率的な使用方法の教育実施

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	96,516	95,089	97,334	92,434	100,473	90,063	93,402	98,585	90,197	97,458	98,168	92,112
2023年度	95,616	100,146	92,914	90,663	91,391	90,049	88,932	96,257	91,771	100,651	92,019	91,163

LPGによる二酸化炭素削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	<p>・老朽化した総菜フライヤーを更新した。</p> <p>・油ろ過きを導入した、酸化を抑える効果が期待できるため油の使用量を抑える効果に期待。</p> <p>【次年度の取組計画】</p> <p>・加熱機器の年一回のメーカー点検の実施と自社での定期清掃を実施し引き続き維持し燃焼効率アップを図る。</p>
・生産効率向上によるLPG使用量の削減	○	

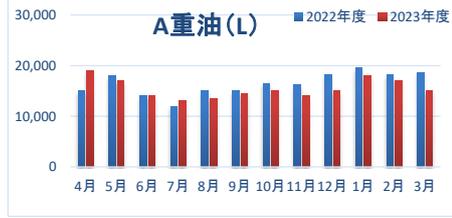


取組紹介欄

- ①日勤と夜勤での工程分担を行い加熱機器の稼働時間を調整し稼働時間の短縮を図った
- ②良品製造で削減に努める

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	15,620	15,660	15,440	15,400	15,560	16,040	15,770	15,369	15,620	15,720	13,977	15,324
2023年度	15,750	15,680	15,910	16,230	15,670	15,450	15,830	16,090	7,850	15,960	16,130	15,930

A重油による二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サンデンの室温管理システムで、庫内温湿度をモニタリングし、温湿度の調整を実施した。</li> <li>【次年度の取組計画】</li> <li>・温度管理データを元に来期の設定変更の時期含め判断材料として進めて行く。</li> </ul>
・生産効率向上によるA重油使用量の削減		○	

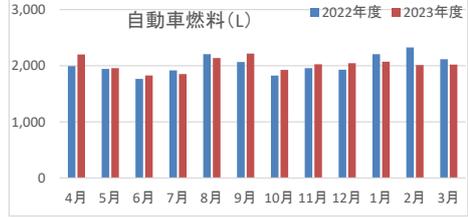


- 取組紹介欄**
- 稼働設備の集約化を実施
  - 洗浄機や給湯器などの適正温度の見直し
  - 解凍庫やホイロ庫の設備の維持管理の強化
  - 天板洗浄機のメンテナンス強化
  - 良品製造で削減に努める



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	15,000	18,000	14,000	12,000	15,000	15,000	16,500	16,200	18,300	19,500	18,200	18,700
2023年度	19,000	17,000	14,000	13,000	13,500	14,500	15,000	14,000	15,000	18,000	17,000	15,000

自動車燃料による二酸化炭素削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		×	<ul style="list-style-type: none"> <li>【新潟工場】ご指摘件数は増加。ご指摘対応場所により社用車の走行距離は変わるが、件数は削減する必要あり。またコロナ過の3年間は取引先との外部の対面での会議も皆無だったが今期は再開され、開発課の会議出席とマーケティングリサーチの回数、頻度は大幅に増加し社用車の使用が増加。今後はご指摘対応以上に増加の可能性もある。下半期は社用車の入替を予定しており、低燃費車による削減効果もある見込み。引き続き良品製造に努める。</li> <li>【湘南工場】ご指摘件数：35件×86km＝3,010km(昨年43件×86km＝3,698km)昨年対比81.4%で達成</li> <li>【長野工場】送迎車をガソリン車からディーゼル車に変更、定員が多くなったため、乗り切れずに増車することもなくなった。乗車人数が少ない場合には社用車を使用することにより燃費の向上を行った。結果的に今期は燃料は増えてしまったが来期は削減したい。</li> <li>【次年度の取組計画】</li> <li>・ご指摘件数の削減</li> </ul>
・ご指摘削減での社用車利用の削減		△	
・送迎人数に応じて送迎車の選定を実施		×	
・原材料の直接の引き取り回数の削減		○	
・9月より長野工場にてガソリン車→ディーゼル車変更		×	

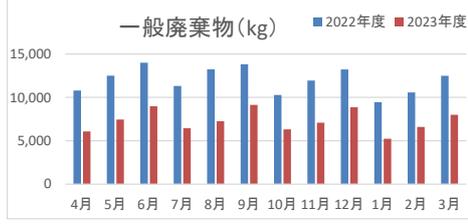


- 取組紹介欄**
- 良品製造で、ご指摘削減に努める
  - 取引先やSEJとの打ち合わせを最小限とする
  - 外部会議や出張を出来るだけWebで行う
  - 原材料等の引き取り回数を減らす
  - 大型送迎車両を購入し送迎台数の削減

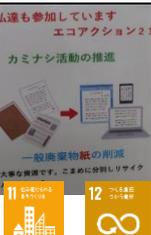


	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	1,993	1,943	1,764	1,916	2,206	2,066	1,825	1,958	1,929	2,205	2,325	2,115
2023年度	2,201	1,957	1,827	1,852	2,137	2,215	1,925	2,026	2,046	2,072	2,011	2,020

一般廃棄物の削減		達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標		○	<ul style="list-style-type: none"> <li>【新潟工場】カミナシシステム運用によるペーパーレス化の促進の為、製造各課にて推進リーダーを任命したことで、製造現場の記録表のペーパーレス化は50%まで上昇、削減に貢献している。製造課での記録表は今期中に100%のペーパーレス化を目標としており、計画通りに進めていく。</li> <li>【湘南工場】ペーパーレス化としてのBill One.Concur invoice導入完了。(500枚以上の請求書削減)・SEJ受注業務にて端末帳票完全PDF化実現、他工場にも方法伝授してゆく</li> <li>【長野工場】今期より一般廃棄物(紙ごみ)を廃プラとして排出した来期も引き続き行う。</li> <li>【次年度の取組計画】</li> <li>システム化によるペーパーレスを進める。</li> </ul>
・長野工場にて紙ごみと廃プラ処理のRPF化実施		○	
・配信データのPDF化・確定書類のデータ化		△	
・事務用品費削減/環境対応商品の採用		○	
・コピー用紙、厚紙、雑誌類のリサイクル実施		△	

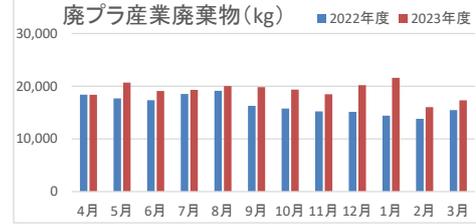


- 取組紹介欄**
- 廃プラと紙ごみを混ぜリサイクル実施
  - Bill One Concurinvoice導入
  - カミナシ担当者を決め教育実施
  - シュレッターを行ったりリサイクル化を実施
  - 印刷物のPDF化に取り組む
  - DX推進での更なる「カミナシ」推進



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	10,795	12,500	14,000	11,320	13,230	13,820	10,280	11,948	13,225	9,445	10,575	12,495
2023年度	6,080	7,450	8,980	6,450	7,260	9,140	6,320	7,080	8,860	5,240	6,590	8,000

廃プラの削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	×	【新潟工場】ピロー包装機のメンテナンスによる包装不良の削減、包装機設定の精査による削減を継続。また包装機オペレーターの教育による包装機設定自らのロス発生も抑制が進んだ。包装資材の適正在庫管理による廃棄品の廃棄ロスも削減に繋がった。引き続き社員の管理レベルの向上に取り組み。 【湘南工場】ブランディング（包材リニューアル）で包材の廃棄が多く出たが、極力シェアし最小に抑えることが出来た。 【長野工場】今期より一般廃棄物を廃プラとして排出し排出量は増えた。来期の施策としてはサーマルラベルをライナーレスラベルに変更予定。生産工程のモニタリング表についても生産管理システム(QCS)導入を予定、記録帳票削減に期待ができる。包装不良に対する対応として包装機の更新を次年度実施する。 【次年度の取組計画】さらなる包材廃棄の減少を目指す。
・包材発注量の精度アップ	○	
・包装不良の削減（セッティング時空袋削減含む）	△	
・返品率の削減	△	
・長野工場にて紙ごみと廃プラ処理のRPF化実施	×	



**取組紹介欄**

- ①包材を出来るだけシェアし廃棄を削減
- ②廃プラをRPFリサイクル
- ③使用後カートリッジを回収しメーカーに返却
- ④包材発注量の精度アップで削減に努める
- ⑤良品製造・返品率の削減に努める
- ⑥包材セッティング精度を上げ削減に努める

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	18,396	17,693	17,355	18,531	19,137	16,272	15,764	15,231	15,135	14,421	13,823	15,469
2023年度	18,375	20,683	19,086	19,293	20,030	19,828	19,360	18,477	20,206	21,597	16,039	17,335

食品廃棄物の発生抑制・再生利用率の向上	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【新潟工場】見込み製造による見込みロス廃棄を2回戦製造の徹底により大幅に削減。また各部門での歩留まり管理の徹底、良品製造によるロス発生も削減が進んだ。行程トラブル・製造ミスによる排出量も大きく減少した。引き続き社員の管理レベルの向上に取り組み。 【湘南工場】在庫管理の徹底し在庫を持ちすぎないように出来た。開封後の延長については随時出来た。 【長野工場】見込み生産数を少なくし、追加製造を行う事を徹底し余剰生産を削減できた。機械トラブルも減少してきたが、老朽化の機械については計画的に更新していく。 行政より食品残渣を家畜の飼料として地元の業者で活用できないかとの打診有り、来期テストを予定。 【次年度の取組計画】歩留まり改善などにより、さらなる食品残渣の減少を目指す。
・適正在庫量の保管による社内期限切れ品の削減	○	
・製造ロス（予備、見込み外し、追加）の削減	△	
・良品製造にて廃棄や返品率の削減	△	
・機械トラブル削減による廃棄物の削減	△	
・ロットテスト精度向上での廃棄量の削減	○	
・ロットテスト精度向上での廃棄量の削減	○	
・ロットテスト精度向上での廃棄量の削減	○	

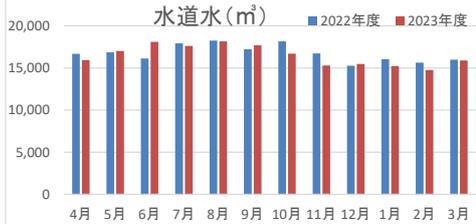
**取組紹介欄**

- ①見込み生産を少なくし追加生産で余剰生産を削減。
- ②原材料の期限延長が出来る物は依頼をかけ廃棄を削減。
- ③製造ミスの削減の為、作業手順の順守し良品製造する。
- ④共有ルールの徹底を図り、返品率と原材料の削減を図る。
- ⑤社員巡回による注意喚起の徹底し廃棄の削減を図る。
- ⑥焼成にて予備数の精査や見込み精度などで追加製造の削減。
- ⑦資材課にて適正在庫管理による原材料廃棄の削減を図る。
- ⑧開発にてロットテストの精度向上により、廃棄量の削減を図る。
- ⑨開発にて事前すり合わせ合格率を上げ食材の削減を図る。

**11** 仕組みけるまちづくりを

**12** つくる責任 つかう責任

水道水の削減	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
数値目標	○	【新潟工場】上期はコロナ5類移行により調理パン・サラダの製造数増加にて野菜処理による使用量が増加。ただし下期は原材料価格高騰の影響で調理パンは値上げにより大きく数量減。連動して野菜処理量も減少し水道使用量減少している。引き続き社員が率先して行動に移して指導に当たって欲しい。 【湘南工場】毎日の巡回で、水漏れ箇所確認及び補修を実施 【長野工場】水を多く使用する天板洗浄機のオーバーホールを実施し節水を図る。 【次年度の取組計画】現場巡回などにより、さらなる節水に努める。
・貯水時や真空冷却器使用後バルブの閉め忘れ防止	△	
・野菜殺菌・解凍・洗浄時の水の適正管理	△	
・製造ミスによる洗浄作業の削減	△	
・蛇口やバルブからの水漏れ点検交換修理	△	



**取組紹介欄**

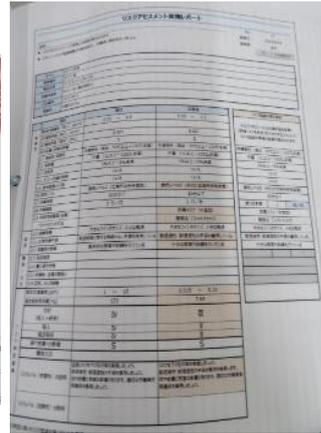
- ①節水型設備に入れ替え。
- ②洗浄方法を工夫する事で削減を図る。
- ③巡回点検し水漏れ箇所の短期修理を図る。
- ④天板洗浄機の2から1ラインし節水。
- ⑤洗浄や解凍などで水の出しっぱなし禁止した。

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
2022年度	16,681	16,859	16,130	17,932	18,253	17,217	18,162	16,730	15,273	16,033	15,629	15,991
2023年度	15,937	17,019	18,107	17,620	18,156	17,686	16,704	15,296	15,484	15,238	14,769	15,890

化学物質の適正管理	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・リスクアセスメントの教育	△	【新潟工場】法改正に伴う管理方法構築(強アルカリと強酸性を分ける)マニュアル作成やクリエートシンプルでの評価を実施。
・有害性物質PRTR含有製品の選定と管理	△	・管理組織の制定と管理に伴う資格者の配置を実施。適正な管理を進めた。引き続きSDSの更新を含め管理、指導に努める。
・有資格者による施設管理	○	【湘南工場】誤投入防止S開発導入・有害性物質の表示の徹底・購入時 SDSを確認PRTR製品は使用しないように注力する
・代替物質の検討	△	【長野工場】化学物質取扱責任者講習、保護具管理者を受講し体制の強化を図って行く。

取組紹介欄

- ①化学物質取扱管理者講習受講。
- ②保護具着用管理責任者講習受講。
- ③化学物質管理者を含む安全衛生管理組織の編成
- ④化学物質含む洗剤等のリスクアセスメント実施。(マニュアル表示・クリエートシンプルでの洗い出し)



グリーン購入への取組

取組紹介欄

- ①再利用可能な事務用品の洗い出しを行い購入実施(事務用品・シューズ等)
- ②コピー用紙は安価でエコ商品に切り替え済み
- ③工場周辺のゴミ拾いを実施
- ④従業員のエコアンケート調査実施



環境に配慮した製品・サービスへの取組	達成状況	取組結果とその評価、次年度の取組計画
・ロングセラー商品、地区商品の開発	△	【新潟工場】カップデリ(サラダ分類)の包材トップシール化によるプラ包材削減に向け、上期トップシール機を導入。3アイテム中1~2アイテムをトップシール化しプラ使用量削減。今後も使用率を増やす為の商品開発を継続していく。【湘南工場】ご指摘件数、昨年対比81.4%で18.6%削減達成・トップシール機導入製品販売。【長野工場】地区開発商品を開発した原材料メーカーとの数量打合せを綿密し引き続き余剰在庫が発生しないよう取り組んで行く。
・地区の優位性のある原材料の取組	△	
・環境に配慮した包材の検討	△	
・ご指摘件数の削減	△	

取組紹介欄

- ①包材の種類をピロー包材から紙包材に変更実施。
- ②包材の種類をプラスチック容器からピロー包材に変更実施。
- ③ロットテストの精度向上と回数削減に取り組み、さらなる歩留まりと廃棄量を削減を目指す。
- ④ご指摘・お問い合わせ件数の削減に取り組み、車使用の回数を削減を目指す。



## 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

適用される法規制	適用される事項（施設・物質・事業活動等）
廃棄物処理法	一般廃棄物、産業廃棄物（動植物性残さ、廃プラ、汚泥、金属、混合等）
食品リサイクル法	食品廃棄物（動植物性残渣）
容器包装リサイクル法	容器包装（日本容器包装リサイクル協会認定）
騒音規制法	空気圧縮機、送風機、洗浄機等
振動規制法	空気圧縮機、送風機、洗浄機等
水質汚濁防止法	煮湯設備・洗浄設備等（排水処理は委託し排水濃度計量証明書取り寄せて確認）
下水道法	除害施設（弊社に無く委託会社に依頼管理）
浄化槽法	浄化槽（定期点検し不定期で汚泥くみ上げ清掃実施）
消防法（危険物）	危険物の保管（倉庫施錠管理）
フロン排出抑制法	業務用空調機・冷凍庫・冷蔵庫（第1種特定製品は業者にて定期点検・報告書確認）
省エネ法	特定事業所・指定事業所（定期報告書等提出）

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境関連法規制等は遵守されていました。

食品リサイクル法の事業者ごとの基準実施率は達成しています。

なお、違反、訴訟等も過去3年間ありませんでした。

### 外部からの環境上の苦情・要請等

- \* 近隣に民間の住宅も無く苦情などありません。
- \* 環境関連法規等の法令違反や訴訟などありません。

## 緊急事態対応の試行・訓練

緊急事態の想定： 火災の発生	緊急事態の想定： 工場内火災の消火
■実施日：2023/7/17～7/30	■実施日：2023/10/31
■参加者：工場内全従業員	■参加者：工場長・副部長・各課代表者
■実施内容： <input type="checkbox"/> 通報訓練 <input type="checkbox"/> 消火訓練 <input checked="" type="checkbox"/> 避難訓練 主に火災を想定しての避難活動	■実施内容： <input checked="" type="checkbox"/> 消火訓練 火災を想定しての初期消火及び放水訓練を実施
■評価：手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし	■評価：手順書の変更の必要性 <input type="checkbox"/> あり <input checked="" type="checkbox"/> なし
■実施状況の様子 	■実施状況の様子 

## 代表者による全体の評価と見直し・指示

実施日：2024年5月20日

- ・EA21活動も3年、従業員の環境への意識も向上して来ているが意識だけではCO2削減や廃棄物の削減には限界がある。太陽光発電等も再検討し知恵を絞り検討して進めて欲しい。
- ・マルハニチログループとして連携して改善を進めて行きます。
- ・地域貢献としてビーチクリーン活動を行っている。全従業員の環境への意識改善に繋がってほしい。

環境経営方針	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり
環境経営目標・計画	<input type="checkbox"/> 変更なし	<input checked="" type="checkbox"/> 変更あり 実績を踏まえて見直すこと
実施体制他	<input checked="" type="checkbox"/> 変更なし	<input type="checkbox"/> 変更あり

# これまでの環境活動の紹介



## 編集後記

- \* エコアクション21活動始めて3年目でようやく従業員、全員に周知が出来て来た様に思います。
- \* 各部署の目標設定等はあらかじめ経営計画書に沿って制作した事で、初年度に比べEC21を取り組めやすくなった。
- \* 消火訓練時に消火器以外にホース伸ばして実際に放水訓練を実施した。毎年継続する事が重要と感じました。
- \* 10月2日に本社・久里浜海岸にて神奈川美化財団を通じてビーチクリーン活動を実施した。  
 従業員の環境意識向上につながっていると思います。
- \* 意識だけではCO2削減や廃棄物の削減には限界がある。新しい設備の導入が必要と思う。
- \* 仕事もエコアクション21活動も相手の状況や気持ちを理解し感謝の気持ち伝えよう事が大切と感じました。